

～シェアする“たね”プロジェクト♪～

“Share Seeds” とは



ハワイ発！“シェアするたね”で地球を食べられる庭でいっぱいにするプロジェクト 日本でも始動！

自分で育てた野菜、ハーブ、花の種をみんなと分かち合うのが、『Share Seeds』。<http://www.share-seeds.com/>

ハワイから始まった活動はアメリカ全土に広がり、ファーマーズマーケット、カフェ、図書館、福祉センターなどに設置されています。

自分が収穫した種をリサイクル封筒に入れます。封筒には種の名前や育て方、メッセージなどを書いて設置された“たねBOX”に置いておく。

種を持っていなくても種を蒔き育てる気持ちがあれば、誰でも自由に持つていくことができます。

受け取った人は、家庭菜園やプランターで愛情を込めて種を育てていきます。自家採種したら次の人に繋ぎ、人と人、自然とがつながりあい分かち合うことからネットワークをつくっていきます。



Share Seeds

【なぜシェアするの？】

種子を保存し、シェアする古代からの習わしが現在危機にさらされています。数千年に渡り世界中の農家が慈しみ育ててきた植物について、これは特定の誰かのものではなく皆が共有すべき技術や知見であるにかかわらず、国際貿易機関 (WTO) をはじめとする国家や国際機関の支援を受けた特定の企業が自社の「発明」とであると主張し特許を取得しているのです。

また、特許取得済の種子のほとんどはその遺伝子が組み換えられています。これらの企業を守るため、特許を取得した種子を皆が保存し、共有する行為を国家が不法としているのです。

種子を保存しシェアすることは、私たちの自由。

つまり資本主義社会で認められるべき自治権を守るためにも、私たちの命を守るためにも、極めて重要です。

植物が育った土の種類、植物が必要とする日光や雨の量、栄養の量、さらには植物が芽生える季節、そして実を結ぶ季節-そのような知見や知恵が種子のひとつひとつに詰まっているのではないのでしょうか。

たねBOXを設置するシェア・シーズ・ステーションでは、遺伝子非組換種子の保存とシェアを推進していきたいと思えます。

誰もが育て収穫することができる種子、今年も来年も、そして再来年もまた芽生えるために新たな種子を育てくれる種子、種子はまさに“生きる希望”です。



Share Seeds